

新
春
に
聞
く
飛
躍
す
る
院
友

コ
ロ
ナ
禍
の
経
験
を
糧
に
「異文化を認め合う社会に」

奈良国立博物館館長 井上洋一さん

令和4年が幕を開けた。オミクロン株の急速な拡大で、出口が見えないコロナ禍。影響が長引く一方、足元を見つめ直し、新たな道を模索する動きも続く。

国学院大学の卒業生(院友)で、昨年4月に奈良国立博物館(奈良博)館長に就任した井上洋一さん(昭60修・93期博後史、昭57修・90期博前史、昭54卒・87期史)。2年以上に及ぶコロナ禍に「新型コロナウイルスは人と人とのふれあいの機会を奪い、隣人や家族、大切な人の存在を

思い出させた」と語った。人類の記憶が凝縮された文化遺産を守り、後世へと伝える役目を担う博物館は、私たちにさまざまなことを教えてくれる。歴史、伝統、文化だけでなく、戦争の悲惨さや人間の愚かさ、平和の尊さも。そして、訪れる人々の感性を豊かにし、生きるための知恵や、力強く生き続ける勇気を与えてくれる。

博物館は単なる「知の宝庫」ではない。精神的な豊かさや生活の質の向上を重視する、平和で自由な成熟社会を

根底から支える哲学を創造する原動力になる。コロナ後の社会を展望した時、異なる価値観を持った人たちが作り上げる歴史を互いに認め合う文化の醸成に、博物館が果たす役割は大きくなるだろう。そして、それが、多様性を認め合い、持続可能な社会の形成へと繋がるはずだ。井上さんは言う。「私たち博物館で働く者は、文化の力で人の心を救うエッセンシャルワーカーなのだ」

4・5面に
関連記事

み
は
る
か
す
も
の

今年(壬寅)の年。諸説あるが「壬寅」は、芽吹き始めや新しい成長の礎を意味するとか。そうした1年を期待する人も多いだろう▼人への投資。こうした言葉が昨年末から政治経済の話題で目に付く。具体的には賃上げや成長分野への労働移動の円滑化、人材育成などが挙がるようだ▼国や企業が、いかに良い制度を作ろうとも、人に新たな成長を求める力がなければ成果は上がらない。中国の書物『管子』には「終身の計は人を樹うるに如くはなし」とある。国家がいかに人を育てるか、人はいかに良く生きるか。その最適解を見つけるヒントを先人の言葉から探りたい▼「人生は見た

り、聞いたり、試したりの三つの知恵でまともになっているが、その中でいちばん大切なのは試したりである」とは、自動車メーカー・ホンダの創業者・本田宗一郎の言葉だ(『本田宗一郎 夢を追いつけた知的バーバリアン』PHP研究所)▼松下電器(現パナソニック)の創業者・松下幸之助は「とにかく考えてみることを、くふうしてみることをしてやってみること。失敗すればやりなおせばいい(『道をひらく』同)との言葉を残す。少年期から実践を重ね、日本のものづくりの礎を作った2人。その言葉は重い▼指先一つで答えが容易に見つかり、何事も「ウイルスのせい」と逃げたくなる時代だが、実践を伴わない成長はない。松下は続ける。「失敗することを恐れるよりも、生活にくふうのないことを恐れた方がいい」と。

新しい年の訪れを祝う歳旦祭(斎主・北澤薫神職奉斎員「神道研修事務部長」)が1月1日、国学院大学渋谷キャンパス神殿で執り行われた。当日は、佐柳正三理事長、針本正行学長をはじめ、法人諸学校の役教職員と学生らが参列した。昨年に続き、新型コロナウイルスの感染予防対策として、来賓らの参列は見送られ、人数を限定しての執行となった。祭典では斎主が祝詞を奏上し、今年1年の平安と本法人の隆昌、コロナ禍の早期収束を祈念した。祭典終了後、挨拶に立った佐柳理事長は「私立学校は大変な危機に直面している。18歳人口の減少をはじめとする諸問題に果敢に挑戦し、積極的な改革をしていかないといけない。何事においても教職員一人一人の力が大きな力となる。一致団結して『オール国学院』の気持ちを忘れず歩んでいきたい」と述べた。続いて、針本学長は「(コロナ禍によって)教育のあり方が問われた2年間だった。今年は創立140周年を迎える。伝統に寄り添いながら新たな大学像を目指したい」と挨拶した。



年頭所感



伝統に立つ改革、そして未来へ

理事長 佐柳正三

新春を迎え、謹んで御祝詞を申し上げます。

本年は、皇典講究所の創立から140周年となる、節目の年に当たります。いまだ新型コロナウイルスの脅威が続いており、本法人は「コロナ禍による経済的困窮を起因とする退学者は一人も出さない」という強い決意のもと、引き続き学生生徒園児らが安心して学べる学園づくりに取り組んでまいります。

精神である「本ヲ立ツル」に立ち還り、まちづくりを通して、日本の再生、発展に寄与できるものと期待しています。

2つ目は、本法人参与で、日本を代表する歌人のお一人である、本学名誉教授の岡野弘彦先生が、令和3年度文化勲章を受章されたことです。本学卒業生初の受章であり、前年度の本法人顧問・澄川喜一先生に続き、2年連続で本法人関係者の受章となりました。

さて、このような状況の中でも、昨年は本法人にとつてうれしいニュースがいくつも続きました。まず1つ目は、人文・社会科学系学部中心であった大学に、文理融合型の「観光まちづくり学部」の設置が認可され、4月から新たな一歩を踏み出すことになったことです。建学の

3つ目は、課外活動で目覚ましい活躍が続き、国学院の名が全国に広まったことです。大学の陸上競技部が出雲駅伝と全日本大学駅伝で4位、硬式野球部が東都リーグ春・秋連覇に加え明治神宮大会ベスト4、柔道部が全日本学生柔道体重別選手権で2階級優勝。久我山高校では

野球部の秋季東京大会優勝による4度目の春のセンバツ出場が確実視されているのをはじめ、陸上競技部、ラグビー部、バスケットボール部が全国大会出場を果たしました。今後もスポーツの振興にも力を注いでまいります。

私学を取り巻く環境は、ますます厳しい状況にありますが、春には創立150年に向け「伝統に立つ改革、そして未来へ」というテーマの下、新たな中期計画を発表いたします。固い絆で結ばれた「オール国学院」の力で、明るい未来の実現に努めてまいります。

本年が皆様にとってよりよい一年となりますようご祈念申し上げます。年頭のご挨拶といたします。



変貌する社会に対応した学修支援

学長 針本正行

あけましておめでとうございます。

本年、国学院大学は創立140周年を迎えます。周年事業の一つとして、準備を進めてきた新学部・新学科の開設は、令和4年4月に実現する運びとなりました。新たに開設する「観光まちづくり学部観光まちづくり学科」では、日本の各地域の歴史、文化、自然を見つめ、文理横断的な学びを通して、持続可能な「まちづくり」を思考し、地域に貢献できる人材を育成します。新学部の誕生が、既存の学部の教員との学術交流や学生相互の親交を促し、140年にわたり培われてきた国学院大学の伝統のもとに、これまでとは異なる「知」が胎動することを期待しています。

から人間中心の社会(Society 5.0)への移行が提唱され、先端技術を活用しつつ社会のさまざまな課題解決を担っていくことができる人材の育成が求められています。本学においても、令和3年度から、科学、技術、工学、数学に関する学修に対応すべく、「データ・サイエンス」「科学と論理」「まちづくりとエンジニアリング」の科目で構成されるSTEM系科目群を設置し、選択必修としました。

現在、全世界を襲っている新型コロナウイルス感染症は、AIやICTの活用を促すにとどまらず、社会構造、就業構造の改革を加速させ、既存の価値観を揺るがし、これからの働き方や人間社会がどうあるべきかという課題を突き付けています。このような社会の変革期にあっ

て、本学は人と人との関わりを

かけがえのないものとし、教員と学生、学生と学生がともに学び合う機会や場をつくり、他者の考えや価値観を尊重しつつ共生社会を生きていく人材を育ててまいります。これにより「知」を問い直し、新たな「知」を創造する学び舎として、希望に満ちた未来をひらく大学となるよう努めます。

令和4年度の授業については、感染状況や社会情勢を見極めた上で、感染防止対策を講じ、対面、通学を原則とする基本方針を立てました。全教職員が一体となって、学生一人ひとりの思いに寄り添い、変貌する社会に対応した学修支援を実現してまいります。

柔道男子日本代表・鈴木監督が来校 佐柳理事長らを表敬



2004年のアテネ五輪柔道男子100kg超級の金メダリストで、昨年10月に柔道男子日本代表監督に就任した鈴木桂治氏(国士舘大教授)写真前列中央)が12月22日、佐柳正三理事長ら役員を表敬訪問した。

2年後に迫るパリ五輪に向けて選手強化を進める柔道の男子日本代表には、国学院大学柔道部の川上智弘コーチがジュニアコーチとして新たに加わっている。鈴木監督は出迎えた佐柳理事長、針本正行学長、大村秀司常務理事に「東京五輪では(日本代表チームの練習会場としてたまプラーザキャンパス柔道場の提供など)たくさんの協力をいただいた。今回、川上コーチにはジュニアのコーチとして選手の育成に力を貸してもらいたい」と挨拶。佐柳理事長は「要請があれば今後も協力していく。(川上コーチの起用は)願ってもない機会でありがたいお話だ」と応じた。

表敬訪問を終えた鈴木監督は「川上コーチは技術面、柔道が好きだという根本、精神面で指導力がある。シニアの強化選手、日本代表の候補に一人でも多く挙げるためにジュニアの指導は一番大事だ。多くの学びを受け止めてジュニアの育成だけでなくシニア代表クラスの選手にも指導ができるよう成長してもらいたい」と話した。

災厄を払う虎

文学部教授 大石泰夫

年頭コラム

今年の干支にちなんで



少彦名神社(大阪市)で御守の張子の虎が付けられた笹飾りを受け取る参拝者(共同通信提供)

「張子の虎」という民具は、古くから端午の節供や八朔祭の縁起物とされ、香川県三豊市はその生産地として知られている。ピンと張ったヒゲやゆらゆらと揺れる振り子式の首など、そのユーモラスな姿は誰もが見たことがあるであろう。



岩手県大槌町の吉里吉里祭りでの吉里吉里虎舞(和藤内の虎退治) ※筆者提供(平成25年撮影)

この張子の虎の起源として伝えられるのが、大阪市中央区道修町に鎮座する少彦名神社の神農祭である。文政5(1822)年、コレラが大坂で流行した際に、薬種仲間が病除けの薬として「虎頭殺鬼雄黄丸」という丸薬を作った「神虎」(張子の虎)の御守とともに神前祈願の後に奉納したことに由来するといわれる。安政5(1858)年にもコレラが流行し、その際にこの薬に添えられた効能を記す文書が残されている。この伝承にちなむ少彦名神社の神農祭には、「神虎笹」という縁起物が授与される。五葉笹に、張子の虎と少彦名神社のお札をつけたものとして授与され、家内安全・無病息災の御守とされている。中国の本草書『証類本草』には、「虎

骨」が去風湿薬としてリウマチ、関節炎、痛風などに応用され、筋骨を強壮するためにも用いられると記載されている。虎は日本には棲息しない動物なので、この中国の伝承が伝えたものであろう。

また、「虎頭」ということであれば、『紫式部日記』に新生児を産湯に入れる際に「虎の頭」が用意されたことが記されている。中国では、虎は古くから鬼や邪気を退け、風を支配する瑞獣とみなされていたので、その知識によるものであろう。

三陸沿岸、とりわけ岩手県釜石市・大槌町には多くの虎舞という民俗芸能が伝えられる。これらは伝統的な芸能でもあるが、近年、青年層の人たちによって伝承団体が結成されたものも少なからず含まれており、この地域では青壮年男子が好む民俗芸能となっている。東日本大震災のあと、瓦礫が積み上がった被災地で、復興を願う人々によって上演された虎舞の姿が世界中に発信され、感動を呼んだことはまだ記憶に新しい。虎は人々の災厄を祓い、人々を勇気づける瑞獣として、東アジアの人々に信仰され続けてきたのである。

国学院久我山高校3部会が 全国大会に出場

国学院大学久我山高等学校の3部会が東京都代表として年末年始に開催された全国大会に挑んだ。

バスケットボール部男子は第74回全国高等学校バスケットボール選手権大会に出場し、1回戦で東山学校（京都府）と対戦し79対101で敗れた。ラグビー部は第101回全国高等学校ラグビーフットボール大会に1回戦シードで出場し、2回戦で鹿児島実業高校に59－14で勝利。3回戦で佐賀工業高校に5－14で敗れ、ベスト16となった。陸上競技部は男子第72回全国高等学校駅伝競走大会に出場し、2時間5分28秒で13位となった。

データサイエンスFD研修会 を開催



教育開発推進機構が主催する「令和3年度データサイエンスFD研修会」が昨年12月15日にビデオ会議システム「ZOOM」を用いたオンライン形式で開催され、教職員ら約50人が参加した。

講師を務めた高橋尚子経済学部教授は「データサイエンスは単独で生かせるものではなく、近年叫ばれるデジタルトランスフォーメーション（DX）を実現するための方法の一つ。情報通信技術と一緒にすることで人文知を作り出す力となる。DXは単なるデジタル化でもIT化でもなく、個人、社会の仕事や行動の意味を考え直し、違うことをやってみようというものだ。データサイエンス、DXに取り組み、ぜひ新しい研究手法や授業、事業を創造してもらいたい」と語った。

各国学生がオンライン上で交流

国際交流課が主催する「インターナショナル・コーヒーアワー」の最終回が昨年12月22日にビデオ会議システム「ZOOM」を用いオンラインで開催され、本学と各国の学生ら16人が参加した。このイベントは、新型コロナウイルスの影響により来日がかなわず、オンラインで学修を続ける各国の協定留学生と本学学生の交流を目的として昨年9月から4回にわたり開催された。

当日は「イギリス」がテーマ。同国のヨーク・セント・ジョン大学の学生2人が、英語と日本語を織り交ぜながらイギリスのクリスマス文化や有名なランドマークなどを紹介した。参加した学生らは「それぞれの国でのクリスマスの過ごし方は？」「おすすめの歴史的な街並みは？」などと会話に花を咲かせ交流を深めた。

一般選抜入学試験 出願を開始

令和4年度の国学院大学一般選抜入学試験の出願が1月4日から始まった。V方式（大学入学共通テスト利用、試験日1月15日・16日）は14日に、A日程（試験日2月2日～4日）は21日に出願を締め切る。後期入試であるB日程（試験日3月2日）は2月22日まで出願を受け付ける（消印有効）。入学試験の実施にあたり、渋谷キャンパス、たまプラーザキャンパスでは事務取り扱いの休止や入構制限が実施される。対象の日時などは本学ホームページで掲載する。



「映え」の時代に宗教文化を「撮る」 日本文化研究所・国際研究フォーラム

デジタルカメラやスマートフォン
の普及で誰もが写真や映像を撮って
発信できるようになり、SNSで
「映え」がもてはやされる時代とな
ったことを背景とした国学院大学日
本文化研究所の国際研究フォーラム
「日本の宗教文化を撮る」が昨年12月
11日、オンライン形式で開催された。
文化財保護や研究、そして、テレビ
番組制作に携わる実務者3人の報告
をもとに議論が交わされたⅡ写真。
日本文化研究所の平藤喜久子所長
（神道文化学部教授）が「誰もがカ
メラを持ち歩いて撮影し、発信する
時代。研究の世界でも書く技術に加
えて撮影する技術が欠かせない。3
D技術やコロナ禍での撮影などを検
討したい」と趣旨説明した。

別な施設が必要で、WEB法会など
では得られない癒やしが実現される
ことが分かった。住職から『私の責
任で座禅会や写経を再開した』との
話も聞け、現場に入る重要性を実感
した」とする。

平藤所長とともにNHKで神社参
拜の番組を作った映像制作会社スタ
ジオブルーの山咲藍プロデューサー
は、宗教施設での撮影の難しさ、参
拝者のプライバシー保護への配慮と
いった特有の課題を報告。「撮影場
所を限定された神社もあった。参拝
者の迷惑にならない時間の取材、個
人情報が明らかにならないような撮
影方法などに苦心した」という。

事例報告の後、国際ファッショ
ン専門職大学の田中雅一副学長、写真
家の港千尋多摩美術大学教授をコメ
ンテーターに加えて「撮ることの
大衆化」「災害を撮る」について議
論。「ありふれた風景だから撮らな
いのではなく、宗教心から撮影しな
い可能性もある」（大河内氏）、「撮
影はモノの文化を残し、失われた思
いを取り戻す」（グラフ氏）、「コロ
ナ禍での取材で取材対象への配慮を
より強く意識」（山咲氏）などの意
見が出された。また「撮ることに
よって責任が生じる。倫理的な次元
と向き合うべきだ」（港氏）、「災害
の撮影では映像が二次事象としてト
ラウマを呼び起こす。（撮影して）
残す・残さないのせめぎあいがある
論点」（田中氏）との指摘もあった。

学問ノ道 第40回

立教史学の生みの親、小林秀雄 明治・大正・昭和の研究者秘話



小林秀雄

昭和18（1943）年、立教大
学は文学部の閉鎖を決定した。そ
の中の一学科である史学科の創設
に尽力したのが西洋史学者・小林
秀雄（1876～1955年）で
ある。小林は明治9（1876）
年11月、旧会津藩士の子として青
森県で生まれた。

国学院（第4期）、立教学校、
日本中学などを経て31年、第二高
等学校に入学。卒業後、東京帝国
大学文科大学史学科に入学、37年
卒業。卒業後、仙台の東北学院に
奉職した。43年、立教大学教授。
44年、広島高等師範学校に赴任し
た藤岡維平に代わって本学講師と
なる（歴史研究法）。大正9（1
920）年教授、予科部長となる
が、12年退職。その後は、立教大

学の専任教授として、史学科を立
ち上げ、史学科長・文学部長を歴
任した。昭和3（1928）年11
月には機関誌『史苑』を月刊誌と
して発刊（当時、月刊の歴史専門
誌は『史学雑誌』『歴史地理』し
かなかった。ちなみに本学の『国
史学』は4年11月創刊である）。
その後資金難となり第7巻から季
刊誌となる。この『史苑』に小林
はベルンハイムの『史学研究法』
の翻訳を連載した。

また、史学科内に「民族学」の
講座をいち早く置いた（当時、
「民族学」は東京帝大、台北帝大
で講じられていた）。この「民族
学」の講座は、小林の立教での初
めての教え子である岡田太郎が担
当したが、岡田は16年に亡くなっ
てしまう（岡田の論考は戦後『民
族学論攷』としてまとめられ、羽
仁五郎が序文を寄せている。しか
しながら、今日では岡田の業績は
ほとんど忘れ去られている）。こ
の講座を小林が引き継ぐが、それ
にあたって、参考書としてグレー
ブナーの『民族学研究法』の翻訳

を行った（本書の翻訳は岡正雄が
著者から許諾を得ていたが、小林
が岡に請うて翻訳を行った）。17
年定年退職（名誉教授）。同年本
学に復職し学部学監・教学部長と
して戦時下の学園で佐佐木行忠学
長を支えた。

戦後も西洋史を講じ、27年大学
院文学研究科日本史学専攻開設に
あたり、手持ちの洋書を寄贈し、
大学院の科目も担当した（史学研
究法）。29年、金沢庄三郎、植木
直一郎、河野省三とともに名誉教
授となったが翌30年1月死去。
生涯を通じて翻訳に当たった
『史学研究法』は刊行されること
がなかったが、晩年まで手を入れ
ていたという。

著書には『希臘古代文化史』
（啓明社昭和3年刊）、『羅馬文
化史』（白東社昭和7年刊）など
がある。

官学を出ながら留学もせず、私
学に一生を捧げた人生であっ
た。

学術メディアセンター事務部
図書館事務課主幹 古山悟由

他者を思う心を育てる博物館

文化財 守るには 教育しかない

奈良国立博物館館長の井上洋一さん（昭60修・93期博後史、昭57修・90期博前史、昭54卒・87期史）は、新型コロナウイルスの感染拡大への対応の中で、人類の記憶が凝縮された文化遺産を守り、後世へと伝えるという博物館の責務を強く感じている。

——奈良国立博物館（奈良博）館長就任の初年度を振り返ると

コロナ禍での就任となり、特別展「聖徳太子と法隆寺」を開催するかどうかの判断に迫られた。これは東京国立博物館（東博）と奈良博の共同の企画であり、東博の副館長として、企画に携わった思い入れの強い展覧会だった。その時、1年前の出来事を思い出していた。特別展「法隆寺金堂壁画と百済観音」を開催することができなかったつらい経験だ。法隆寺（奈良県斑鳩町）の第129世住職・聖徳宗第6代管長で、令和元年10月に亡くなった大野玄妙さん、大東断によって、23年ぶりに、大東断によって、一緒に考えるようにしている。最近、博物館の世界でも社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）という言葉が使われるが、分け隔てなく、誰も取り残さないことを心がけている。

——どのような博物館であるべきなのか

博物館は市民に開かれた施設でなければいけない。研究員たちとは、「誰のための博物館なのか」を常に意識し、一緒に考えるようにしている。最近、博物館の世界でも社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）という言葉が使われるが、分け隔てなく、誰も取り残さないことを心がけている。

——印象に残った経験は

正倉院展の準備で、年に一度、天皇の勅使が臨席し、宝庫の扉を開ける儀式「開封の儀」に立ち会った。帝室博物館（東京、京都、奈良国立博物館の前身）総長を務めた森鷗外も、この儀式に立ち会っていて、その時のことを「勅封の筭の皮切りほどく鉄の音の寒きあかつき」と詠んでいる。自分もその場に立ち会い、その歌を思い出した。

——コロナ後の社会にとって、博物館、文化財、文化の持つ役割とは

大学の新生入生にとっては、入学はしけれども、新しい良き仲間と知りあうことも触れ合うこともできない。新社会人にとっても、テレワークを強いられ、飲み会などの語らいの場もなくなってしまった。本当に大切な人との最期



——文化財をどう生かし、繋ぐべきか

文化財には人類の記憶が凝縮されている。現代の私たちが見るだけでなく、後世に伝えることで、文化財が持つ本来の意味を解明できるかもしれない。

文化財を守っていくには、教育が大切だと思う。大学院時代からシリアでの発掘調査に参加し、保存修復にも関わった遺跡やさまざまな文化財が、過激派組織イスラム国（IS）やトルコ軍に破壊され、大きなショックを受けた。貧困問題や大きく異なるイデオロギーの問題が紛争の引き金となり、こうした蛮行に至ったのかも知れないが、その問題解決にも教育の力が必要不可欠だ。



土器や石器がザクザク…
発掘に魅せられて
研究の道へ

井上館長が考古学研究の道に入ったきっかけは、中学3年生の夏休みにまでさかのぼる。社会科の先生が発掘に連れて行ってくれて、土器や石器がザクザク出土し、そのワクワク感が井上少年を虜にした。5000年前の竪穴住居跡に座り、古代人の生活に思いをはせ、考古学者になりたいと思った。将来の進路を決定つけたのは、大学院生の時に経験したシリアでの発掘調査だった。「当時、最先端の古代文明を誇った街が、戦乱で衰退してしまっただけを見て、何とも言えない気持ちになった。人間とは、豊かさとは何だろうと考え、文化や歴史をもっと突き詰めたいと研究者を志した」

いのうえ・よういち

国学院大学文学部卒業後、同大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得。昭和60（1985）年、東京国立博物館に入り、九州国立博物館学芸部長、東博学芸企画部長、東博副館長などを歴任。令和3年4月、奈良国立博物館長に就任。日本考古学が専門で、日本の青銅器文化の研究などを行っている。日本ユネスコ国内委員会委員、ICOM（国際博物館会議）日本委員会理事として、文化財保護や博物館活動に参画している。本学大学院兼任講師。神奈川県相模原市出身。

●奈良国立博物館

東大寺、興福寺、春日大社などに囲まれた奈良公園の一角に位置している。特に仏教と関わるの深い古美術品や考古遺品などの文化財の保存を図り、調査・研究を行っている。展示を通して仏教への信仰が生み出した優れた美術の魅力と、その背景にある豊かな歴史・文化について伝えている。企画展として特別展、特別陳列、特集展示および親と子のギャラリーを実施。通常、名品展は、なら画像館で彫刻、西新館で絵画、書跡、工芸、考古の各分野の文化財を展示している。特別展は恒例として、毎年秋季に正倉院展を開催している。

詳細は本学HP「国学院大学メディア」に掲載



ご感想やご意見をお寄せください
10名様様に読者プレゼント

本紙へのご感想やご意見をぜひお寄せください。アンケートにご回答いただいた方の中から抽選で10名の方に、奈良国立博物館オリジナルの正倉院宝物をデザインした不織布マスクをプレゼントします。アンケートはQRコードから（締切…2月13日（日））。なお、当選者の発表は、発送をもって代えさせていただきます。

アンケート回答者の個人情報
は法令に基づき
プレゼントの発送
に限り使用します。



インフォダイジェスト

... 在学生
 ... 保護者
 ... 卒業生
 ... 一般
 ... 受験生
 内容
 日にち
 時間
 場所
 対象
 申し込み
 料金
 問い合わせ

大学からのお知らせ

2・3月中の事務室開室および 証明書発行機の稼働日程

内 2・3月中の事務室の開室と証明書自動発行機の稼働日時は、渋谷・たまプラーザキャンパスとも本学

H Pを参照してください。

大学院学位授与式

内 大学院の第70回学位授与式を以下の通り執り行います。
 日・時 3月19日(土)11時～
 場 百周年記念講堂
 問 大学院事務課 (☎03・5466・0142)

博物館

料 無料
 時 原則、水・木・金・土曜日の12時～17時（最終入館16時30分）。短縮開館
 ※博物館関連イベントの問い合わせは☎03・5466・0359

特別展「都の神 やしろとまつり —世界遺産 賀茂別雷神社の至宝—

内 京都の北方、賀茂川上流に鎮座する賀茂別雷神社（通称、上賀茂神社）は賀茂別雷大神をご祭神としています。8世紀末に大和国から山城国に都が遷って以降、同社は「都の神」となり、朝廷をはじめとする人々の信仰を集め、賀茂祭（通称、葵祭）など数多くの祭祀・行事が行われています。
 国宝の本殿と権殿を含む敷地はユネスコ世界文化遺産に、「賀茂神主経久記」（『嘉元三年御遷宮日記』『賀茂社嘉元年中行事』ほか）・賀茂別

雷神社文書（約1万4000点）などの神社の歴史を語る古代から近代までの史料は重要文化財に指定されています。
 本展では、『賀茂神主経久記』や賀茂別雷神社文書、ご祭神のために本殿内に収められていた御帳台・御調度品を特別に展示いたします。至宝の数々をぜひご覧ください。また、展示紹介動画を「オンラインミュージアム」＝QRコード＝で配信します（2月19日(土)12時公開予定）。
 日 1月27日(木)～3月26日(土)まで
 場 企画展示室



キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

模擬面接指導会

内 模擬面接で選考に向けた最終チェックをしましょう！面接力の強化と最終チェックを目的に行います。本番の採用選考の面接では、フィードバックがないため、どこが良くてどこが悪かったのか分からず、同じ過ちを繰り返してしまう危険性があります。採用試験解禁前に自分の面接内容について、実際の企業の採用担当者から実践的なアドバイスをもらえる貴重な機会ですので、本番対策として積極的に参加してください。
 日・時 2月14日(月)12時30分～17時30分
 対 3年生

学内合同企業説明会

内 学内で優良企業と出会い、応募に繋げよう！本学学生を採用する意欲が高い企業・団体をお招きし、採用担当者から直接話を伺うことができる合同説明会です。一日で多くの企業・団体と出会うことができます。この機会に業界・企業・職種研究を進め、自分にあったオンリーワン企業を探しましょう。対面・WEBで開催します。
 日 ▶ 対面 = 2月16日(水)・17日(木)
 ※WEB形式に変更の可能性あり
 ▶ WEB = 2月21日(月)・22日(火)
 時 いずれも10時30分～12時50分、14時～16時20分
 対 3年生・修士1年生

イベント

30

研究開発推進機構主催オンライン公開講座 「蒙古襲来の実態とその影響」

内 蒙古襲来の実態とその影響を統一テーマに、令和3年度公開学術講演会「水中考古学による蒙古襲来研究」と第46回日本文化を知る講座「蒙古襲来の影響を多角的に考える」を同時にオンデマンド動画として配信します。配信期間内は何度でも動画を視聴可能です。
 日 3月31日(休)まで
 料 無料
 申 動画配信期間中に本学HP（QRコード）から申し込みを。
 問 研究開発推進機構事務課 (☎03・5466・0104)



新型コロナ関連のお知らせ

感染が疑われたら保健室に連絡を

内 新型コロナウイルス感染症と診断された方、疑いがあると言われた方は、必ず保健室にメールか電話で連絡をしてください。
 ▶ 保健室アドレス ☐ hoken@kokugakuin.ac.jp
 ▶ 渋谷TEL（平日・土曜9時～16時30分）
 ☎03・5466・0148
 ▶ たまプラーザTEL（平日・土曜9時～16時）
 ☎045・904・7660

「3密」を避けよう



咳エチケット



逆風を逆手に就活を

「脱「ガクチカ」に向けて」



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ
 学校法人国学院大学特別参事。
 人間開発学部初代学部長、専門
 は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

「ガクチカ」という言葉、ご存じですか。「学生時代に力を入れたことや頑張ったこと」という意味です。実はコロナ禍の中で、これが、学生たちを社会に送り出す責務を負う大学教員にとって厳しい言葉となっていました。というのは、ガクチカによる自分探しは、企業が採用にあたって重要な志望動機や自己PRでもあるからです。では、なぜ「コロナ禍の中で」自分探しが困難なのでしょうか。それはコロナ禍で、ガクチカにとって重要な素材となる部活動への参加や友人との交流が少なくなったからです。学生生活において今日、学修以外に消極的にならざるを得ない社会状況が生まれているのです。
 大学職員からも、今日の本学学生の課外活動について、情報をもらいました。とりわけ現2年生などは、途中参加への心理的ハードルや、経験値が無いのに3年生になったら幹部にならざるを得ない不安などから参加率が著しく低くなっているとのことでした。
 筆者は平成25年3月に人間開発学部1期生を社会に送り出すにあたって、以前在籍した佐賀大学の同窓会に協力してもらい、自ら就活を行いました。人事の幹部級との面談では、20分程度という予約時間が、大抵1時間以上になりました。それは、人材育成あつての会社という企業の姿勢によるものでした。
 企業側から大学への投げかけの中から、印象的なものを2つ挙げます。「専門って、何ですか？ここは〇〇の企業ですが、それで飯を食う社員は数割。専門の基礎になる課題解決探究力、知識の活用力、プレゼン力、それに何よりも協同する力などを養ってほしいです。したがって、専門は問わないが、3カ月で専門知識を吸収できる力を求めます。それほどこ、ある意味、企業は厳しいのです」
 「大学は学修を通して自分探しをさせていますか？大学の先生方は4年間、何を教えているのですか？どうして私たちが改めて、就活で学生さんたちの自分探しのお



箱根駅伝往路選手コメント「感謝」「来年こそ」



1区 藤木 宏太（神文4） | 区間6位 | 1時間1分26秒

区間賞には届かなかったが、4年連続1区を走れて光栄に思う。総合8位でシード権を獲得できた。目標の総合優勝には届かなかったが、後輩たちが活躍し、達成してくれると信じている。2日間の応援に感謝するとともに、今後も後輩たちを応援してほしい。

2区 伊地知 賢造（健体2） | 区間12位 | 1時間7分51秒

多くの応援に感謝したい。「花の2区」を走って、各校のエース級の選手との実力差を痛感し、もっと強くならなければ強く感じた。個人としてもチームとしてもレベルアップし、成し遂げられなかった総合優勝という目標に挑戦できるようにまた頑張りたい。

3区 山本 步夢（健体1） | 区間5位 | 1時間1分59秒

初の三大駅伝が箱根駅伝となったが、3区で自分の力を全て出し切れ、良い結果に繋がったのはとても良かった。来年度はチームを引っ張っていき駅伝シーズンでは区間賞の走りができるよう一日一日を大切に練習していきたい。



4区 中西 大翔（健体3） | 区間4位 | 1時間1分50秒

思うように走れず1年間苦しかったが、自分のため、チームのためにと強い気持ちで臨んだ。4区は1年次も走ったので良いイメージがあり、落ち着いて走れた。来年は最終学年。チームのために全力を尽くし、主将として引っ張っていきたい。



5区 殿地 琢朗（健体4） | 区間9位 | 1時間12分43秒

4年間で一番苦しい箱根駅伝だった。結果は悔しいが、力を出し切れたので心残りはない。尊敬できる同期、頼れる後輩たちと襷を繋ぐことができ本当に良かった。サポートしてくれたスタッフ、仲間には心から感謝したい。4年間応援してくれた方々に感謝したい。

写真提供：月刊陸上競技

—— 前田康弘監督コメント ——

4年生が頑張ってチームを作ってくれたが、（故障者やアクシデントがあり）万全の状態で出場できなかった選手もいた。チームが盤石な状態でないと目標には届かない。レースの中で試せたこともあるので結果を受け入れて（来季の駅伝シーズンへ）新たなスタートを切りたい。

—— 木付琳主将コメント ——

今までのたくさんの温かい応援に感謝したい。今回の箱根駅伝はチームとして初めて「総合優勝」を目標に掲げスタートした。目標に向けてチームは1年間、泥臭い練習をしてきた。どんなに力があっても、万全の準備ができていないと箱根駅伝ではごまかすことができず、はね返される現実を身をもって体験した。だが、チームが挑戦し、積み上げてきたものは変わらない。もう来年の箱根駅伝は始まっている。年々良いチームへと変わってきたので来年はきっと後輩たちがやってくれると信じている。

団体・個人の成績

柔道部＝全日本ジュニア体重別選手権大会が昨年12月18日、19日に講道館（東京都文京区）で行われた。本学柔道部からは男子66kg級に羽田野啓太選手（健体1）、男子73kg級に阿久津友春選手（法1）、男子81kg級に岩下幹人選手（健体1）、男子90kg級に寺島悠太選手（健体2）と中村俊太選手（健体1）の5人が出場し、それぞれベスト16に入った。

卓球部＝関東学生卓球選手権大会が昨年12月19日から21日に和光市総合体育館（埼玉県和光市）で行われた。女子ダブルスで高橋沙希選手（法3）・小畑美菜選手（初等3）ペアがベスト8（5位）に、女子シングルの高橋選手がベスト16（12位）に入った。

ソフトテニス部＝関東学生ソフトテニス研修大会の男子1部が昨年11月27日、28日に早稲田大学所沢キャンパス（埼玉県所沢市）で、女子2部が12月4日、5日に本学相模原グラウンド（神奈川県相模原市）でリーグ戦方式により行われた。

男子は各大学と接戦を繰り広げたものの、僅差で敗れ1勝4敗で6校中6位となった。女子は全勝をかけた立教大学戦で惜しくも敗れ、4勝1敗で2位となった。

蹴球部＝第54回東京都大学サッカーリーグ戦1部は昨年11月6日に全日程が終了。同部は、全24試合を戦い14勝6敗4分けとなり、全13チーム中4位でシーズンを終えた。

ラグビーフットボール部＝関東大学リーグ戦2部は昨年11月28日に全日程が終了し、同部は全7試合中4勝3敗となり全8校4位でシーズンを終えた。

居合道部

表彰台は「通過点」 道を究めこれからも 秋山選手、高澤選手、前田選手

渋谷キャンパスのアリーナに姿勢よく立つ胴着袴姿の学生。手にする日本刀が静かに空を切った。稽古をするのは国学院大学居合道部の学生たち。居合道部は昨年で創部50年の節目を迎え、10月に行われた東日本学生居合道大会・個人の部では、秋山幸治選手（法4＝写真中央＝）が優勝。準優勝に高澤ミシエル優希選手（史4＝同左＝）、3位に前田泰晟選手（史4＝同右＝）と表彰台を独占した。団体の部でも優勝し、好成績で花を添えた。初の快挙に喜びはひとしおかと思っただが、「試合後、（他校より熱心に）反省会をしていた」（秋山）と学生たちは冷静だ。

室町時代に起源があるとされる居合道は日本刀の操法に由来し、見えない敵（仮想敵）を相手に刀を抜く一瞬にかける。定められた形の精度を磨こうと学生たちは稽古を続ける。大学入学後に居合道を始めた3人。「もともと剣道をしていた」（秋山）「刀剣鑑賞にはまっていて」（高澤）「学科の先輩がやっていたから」（前田）と入部の動機はさまざまだが、「今では居合道が中心の私生活」というほど究める道は果てしない。

活動は週3回の全体練習が中心で、「大会前や昇段審査前は、毎日のように稽古をしている」（前田）、「1時間でも空き時間があれば一人で稽古ができる」（高澤）という。稽古は、号令に合わせて一斉に刀を振る形式は少なく、個人の課題や体格に合わせて体の使い方のイメージを正確に伝えられるようにと部員同士の1対1の指導が中心だ。「コロナ



禍で練習時間は限られ、一人一人の課題に見合った指導・稽古をするようになっていく。特に1、2年生は長期間、活動できなかった影響で先輩から受け継いできた伝統が途切れそうになっている」と高澤選手は話す。

居合道の試合は男女の区別がなく、対戦する2人が計5本の形を演武し、修業の深さ、礼儀、技の正確さ、心構えなどを判定する。コロナ禍で2年ぶりに行われた大会で表彰台に立った3人。「勝って納得がいくことはない」と謙虚に語る。一方で大会に出場できないまま昨年3月に卒業した先輩たちに触れ「先輩の分も結果を出したいという思いが強かった。うれしさより責任を果たした安堵感がある」（高澤）と振り返った。

「先輩たちは卒業式の前日まで稽古をしていた」という居合道部。残りわずかの学生生活だが、3人も鍛錬に余念がない。卒業後も稽古を重ねて最高段位の八段を目指したいという3人。心身鍛錬の武道という奥深い居合の道を一步一步進んでいる。

陸上競技部

箱根駅伝 総合8位 苦しみなながらも 粘りのシード権



シード権を守り切りゴールする10区・相澤選手

第98回東京箱根間往復大学駅伝競走大会が1月2日、3日に東京・大手町から箱根・芦ノ湖畔までの往復217.1kmを繋ぐ全10区間で行われ、国学院大学陸上競技部は10時間57分10秒で総合8位（往路4位、復路13位）となった。優勝は青山学院大学で2年ぶり6回目。10時間43分42秒の大会新記録だった。

本学陸上競技部は「Be Strong～新たな時代の幕開け～」をスローガンに掲げ、昨年10月の出雲駅伝、11月の全日本大学駅伝でそれぞれ4位となり、今大会は「総合優勝」を目標に挑んだ。

往路は4年連続で1区を担ったエースの藤木宏太選手（神文4）が総合優勝を争う各大学と僅差の6位と好位置に付けた。各大学のエースが集う「花の2区」は全日本大学駅伝で区間賞を獲得した伊地知賢造選手（健体2）が走り、各大学の順位が大きく変動する中、10位で襷を繋ぐ。3区では山本歩夢選手（健体1）が大学駅伝デビュー

一戦ながら6人抜き of 快走で4位まで順位を押し上げると、4区 of 中西大翔選手（健体3）も1人を抜き3位で小田原中継所へ飛び込んだ。勝敗を左右することもある要の5区で殿地琢朗選手（健体4）は一時は2位に浮上する力走を見せ、5時間25分49秒 of 往路4位で芦ノ湖畔にゴールした。

復路は先頭から3分43秒差でスタート。各大学が僅差で続き順位が目まぐるしく入れ替わるレース展開の中、徐々に各大学に先行を許す苦しい展開となるも、6区 of 原秀寿選手（健体1）、7区 of 木付琳選手（経4）、8区 of 石川航平選手（健体4）はシード権内で襷を繋いだ。9区 of 平林清澄選手（経営1）は10位で襷を受け取ると区間新記録を狙える快走を見せ、先行する大学を次々と追い抜く。区間2位の走りで順位を5位まで押し上げた。最終10区はアンカー of 相澤龍明選手（中文4）が粘りの走りを見せ総合8位で東京・大手町のゴールテープを切り、4年連続でシード権を獲得した。

第98回箱根駅伝（総合順位）

順位	大学名	記録
1	青山学院大学	10:43:42 (大会新)
2	順天堂大学	10:54:33
3	駒沢大学	10:54:57
4	東洋大学	10:54:59
5	東京国際大学	10:55:14
6	中央大学	10:55:44
7	創価大学	10:56:30
8	国学院大学	10:57:10
9	帝京大学	10:58:06
10	法政大学	10:58:46

以上、シード権獲得（以下略）

復路選手コメント「経験を次に」

往路選手、監督、主将コメントはⅡ面



原秀寿選手（左）、木付琳選手（右）



石川航平選手（左）、平林清澄選手（右）



相澤龍明選手

6区 原秀寿（健体1） | 区間**17**位 | 1時間0分22秒
スタート後の登りをうまく走れず、思っていたレース展開ができなかったが、下りはスピードを生かしながら走れ、ラスト3kmもしっかりと力を絞り出せた。好走できず悔しい結果だったので、来年の箱根駅伝ではもっと力をつけてリベンジしたい。

7区 木付琳（経4） | 区間**20**位 | 1時間6分22秒
ここまで多くの応援をいただき、本当にありがたかった。箱根駅伝総合優勝を掲げてこの1年間やってきたことは自分の財産となった。力を出し切ることはできな

かったが4年間に悔いはない。この悔しさは次のステージでぶつけていきたい。

8区 石川航平（健体4） | 区間**7**位 | 1時間5分42秒
箱根駅伝の偉大さを知った。楽しい21.4kmだった。10年間の競技人生で多くの方に支えられ応援してもらったが、最後に夢だった箱根駅伝を走る姿を見ることができて幸せだった。この経験を社会人になっても生かしていきたい。

9区 平林清澄（経営1） | 区間**2**位 | 1時間8分7秒
少しでも前へと攻めることだけ考えた。5位まで押し

上げることができ、4年生に最後の恩返しができることができた。最後にペースが落ちなければ区間新記録が出せたので、詰めの甘さが課題。克服して来年の箱根はエース区間で他大学のエースと戦いたい。

10区 相澤龍明（中文4） | 区間**16**位 | 1時間11分8秒
ふがいない走りチームの足を引っ張ってしまった。だが、10区23kmを走り、沢山の皆さんの支えでここまでこれたと実感した。卒業後は教師として人生を歩む。感謝の思いを走りで返せたいと言いきれないが、この経験を生かしさまざまな方に恩返しし、人と人との繋がりを大切にしていきたい。

写真提供：月刊陸上競技